「高校生の原子力に関する意識調査」にみる
原子力発電への関心度の変化、またクリアランス制度の認知度変化

福井南高等学校
Fukuiminami High school

3年生　浅井ゼミ 副ゼミ長　澤花音

学校紹介









福井南高等学校
Fukuiminami High school

- 私立の総合学科（定時制）高校
- 80人/学年の小規模校
- 普通科、商業科、福祉科の３コース
- 周囲は田園風景が広がる
- 毎週金曜が一日探究の時間

2026年度は全17ゼミが活動

主なテーマ「地域活性化」「母乳バンク」「子どもの難病支援」「野生生物」など

ゼミ紹介





・2021年度から原子力発電のバックエンド（地層処分）を出発点に
「原子力 」×「社会/地域/地元課題」×「自身のテーマ」で課題解決を目指す。

・3年生3人、2年生4人、1年生1人、助手（ゼミOG）6人、アドバイザー１人

・「高校生の原子力に関する意識調査」と「クリアランス資源のリサイクル活動」



SAWA　Kanon

澤 花音

福井県敦賀市出身。
高校入学後、OECD/NEA主催の理系女子イベント”Joshikai”に参加したことがきっかけで浅井ゼミに転属。現在は5代目副ゼミ長としてメンバーの意見をまとめる、人間関係に気を配る役割を担っている。



SHIMOZONO　Ako

下園 愛心

福井県坂井市出身。2023年度および2024年度の「高校生の原子力に関する意識調査」に関わる。地層処分に関心を持ち、高校在学中にスウェーデンを視察。国際的な視点から更に学びを深めたいと社会学部へ進学。浅井ゼミ 3代目副ゼミ長。現在は大学附属高校（高等部）のクリアランス活動にも関わっている。関西学院大学2年生。



MORI　Yuno

森 夕乃

福井県鯖江市出身。福井南高校入学後から「高校生の原子力に関する意識調査」やクリアランス制度の理解促進活動などに携わる。「高校生の原子力に関する意識調査2023」責任編集。浅井ゼミ 2代目ゼミ長。大学進学後も原子力発電のバックエンドに関する学習や実践を続けている。慶應義塾大学３年生。

「高校生の原子力に関する意識調査」とは

2021年度



【調査対象地域】

福井県　n=1807

2022年度



【調査対象地域】

東京都　n=161

福井県　n=1882

2023年度



【調査対象地域】

東京都　n=813

福井県　n=2406

京都府　n=138

兵庫県　n=1561

沖縄県　n=488

Alacant　n=57

2024年度



【調査対象地域】

埼玉県　n=1396

東京都　n=1640

福井県　n=1992

京都府　n=1005

兵庫県　n=822

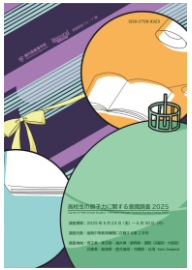
島根県　n=538

鹿児島県　n=2209

沖縄県　n=1356

New Zealand　n=42

2025年度



【調査対象地域】

埼玉県　n=1171　沖縄県　n=703

東京都　n=297　台湾　n=19

福井県　n=1354　New Zealand　n=163

静岡県　n=1764

京都府・大阪府　n=113

兵庫県　n=1726

島根県　n=337

鹿児島県　n=1244

2026年度



【調査対象地域】

青森県　n＝993

埼玉県　n=1114

東京都　n=約600

福井県　n=1584

岐阜県　n＝747

静岡県　n=561

京都府　n＝282

大阪府　n=412

兵庫県　n=2083

奈良県　n＝491

和歌山県　n＝502

島根県　n＝405

愛媛県　n=704

佐賀県　n＝585

長崎県　n=718

鹿児島県　n=952

沖縄県　n＝649

台湾　n＝361

New Zealand　n＝77

今日お話すること

・「高校生の原子力に関する意識調査」とは

・2026年度調査の速報値のご紹介（一部抜粋）

・過年度比較と考察

「高校生の原子力に関する意識調査2026」



【調査対象地域】と回答割合

青森県　n＝993（10.7%）
埼玉県　n=1114（1.9%）
東京都　n=約600　（---%）
福井県　n=1584　（22.0%）
岐阜県　n＝747　（4.4%）
静岡県　n=561　（1.8%）
京都府　n＝282　（1.3%）
大阪府　n=412　（0.6%）
兵庫県　n=2083　（4.7%）
奈良県　n＝491　（3.9%）
和歌山県　n＝502　（6.7%）

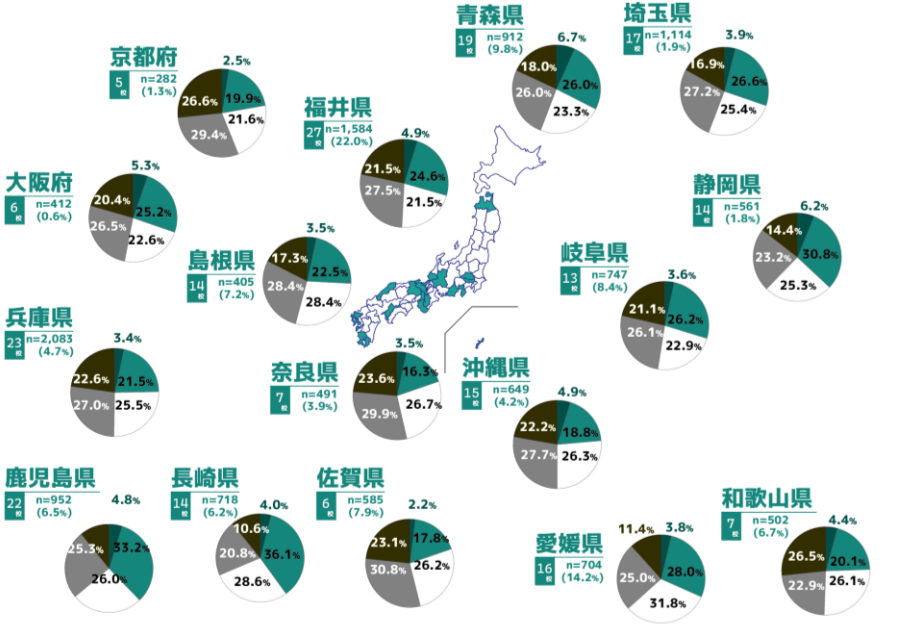
島根県　n＝405（7.2%）
愛媛県　n=704（6.8%）
佐賀県　n＝585（7.9%）
長崎県　n=718（6.2%）
鹿児島県　n=952（6.5%）
沖縄県　n＝649（4.2%）
台湾　n＝361（---%）
New Zealand　n＝77（---%）

調査対象地域*の調査対象人口に対する回答率は 2.9% で

概ね例年通りの数値である。

＊台湾、New Zealandを除く。

「高校生の原子力に関する意識調査2026」から



4. 原子力発電に対してどの程度の関心を持っていますか.

■とても関心がある　■やや関心がある
□どちらともいえない
■あまり関心がない　■関心がない

▶ 静岡県の関心の高さ

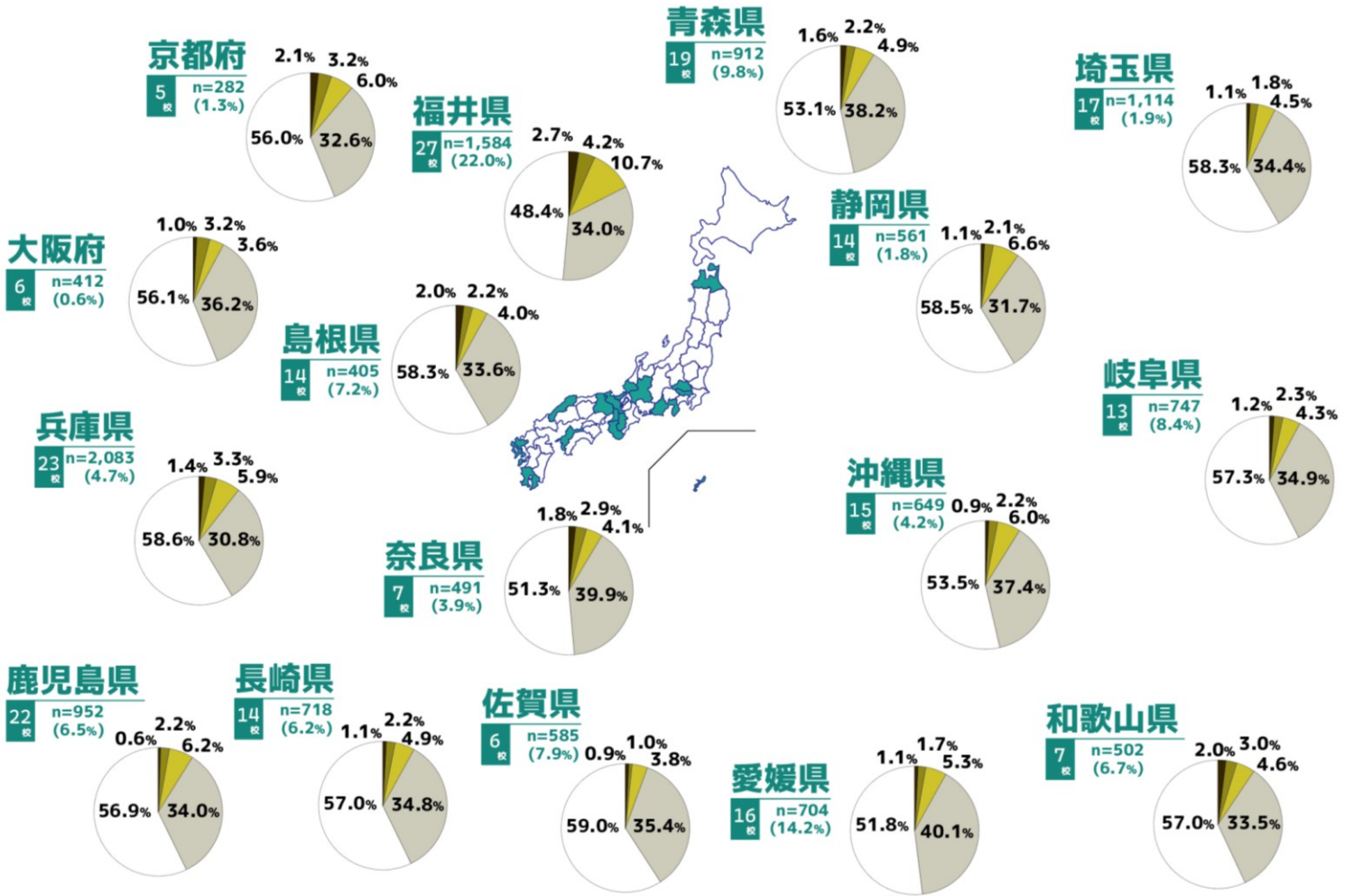
- 南海トラフなど防災意識の高い地域
- 中部電力浜岡発電所に関する報道

▶ 長崎県の無関心層の少なさ

- 平和教育の徹底による意識の高さ
- 原爆＝放射線＝怖い＝原子力発電？



長崎県内の教育機関にもクリアランス金属製街灯「花灯」が順次設置され、放射線教育の教材として、またリサイクルやSDGsの教材として活用されています。



12. 原子力発電所の廃炉に関連するクリアランス制度・資源に関してどの程度知っていますか.

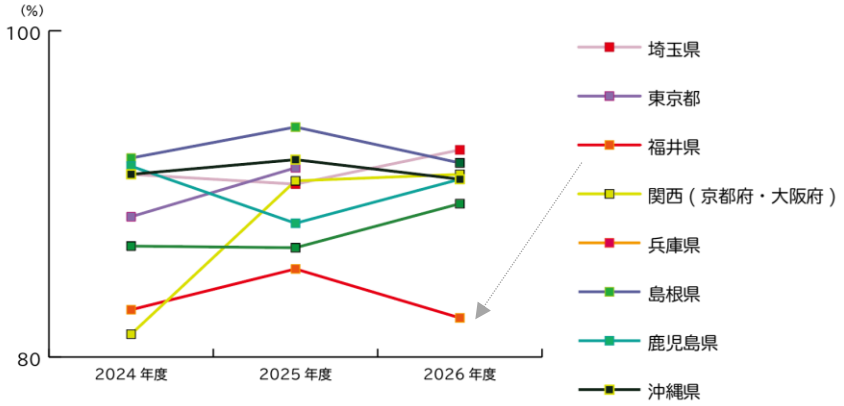
- ■クリアランス制度・資源に関して知識があり、人に説明ができる
- ■クリアランス制度・資源に関して学習したことがある
- ■クリアランス制度・資源に関して見聞きしたことがある
- ■あまり知らない
- □知らない

「高校生の原子力に関する意識調査」過年度比較から

質問 13. 原子力発電所の廃炉に関連するクリアランス制度・資源に関してどの程度知っていますか.

「知らない」＋「あまり知らない」の合算値＝**低い方が認知度が高い**

（「知らない」＋「あまり知らない」を合算）



[n 値]	2024 年度	2025 年度	2026 年度
埼玉県	1,396 (2.3%)	1,171 (2.0%)	1,114 (1.9%)
東京都	1,640 (1.5%)	297 (0.6%)	(未分析)
福井県	1,992 (26.9%)	1,354 (19%)	1,584 (22.0%)
関西	1,005 (4.5%)	113 (- - -)	694 (- - -)
兵庫県	882 (1.8%)	1,726 (3.9%)	2,083 (4.7%)
島根県	538 (8.4%)	337 (5.9%)	405 (7.2%)
鹿児島県	2,209 (12.8%)	1,244 (8.3%)	952 (6.5%)
沖縄県	1,356 (8.9%)	703 (3.6%)	649 (4.2%)

▶ 福井県の認知度の高さが顕著

- 各校での取り組みだけでなく報道の多さ
- 県全体での取り組みが奏功

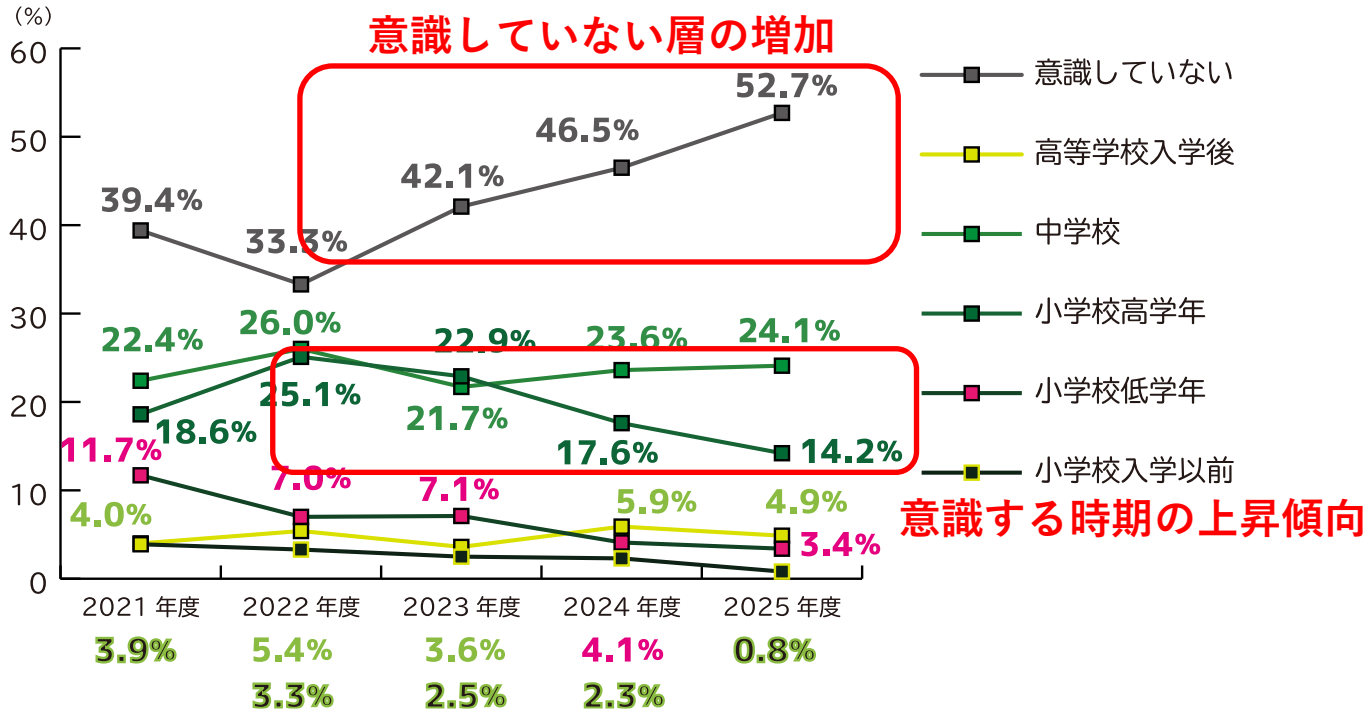
▶ 発電所立地地域との関係

- 有意差は見られない
- 情報取得の多様性や回答校の属性に左右されている可能性

「高校生の原子力に関する意識調査」から

質問５．いつ頃から原子力発電について関心を持っていますか.

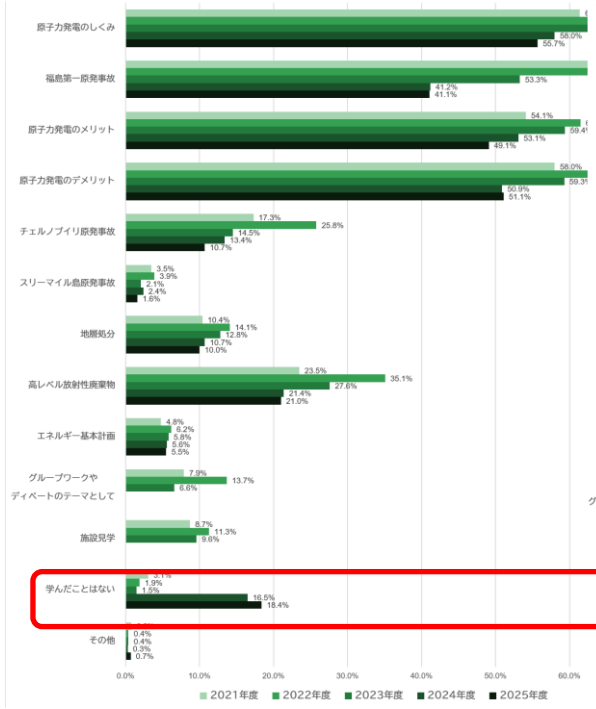
福井県 の過年度比較



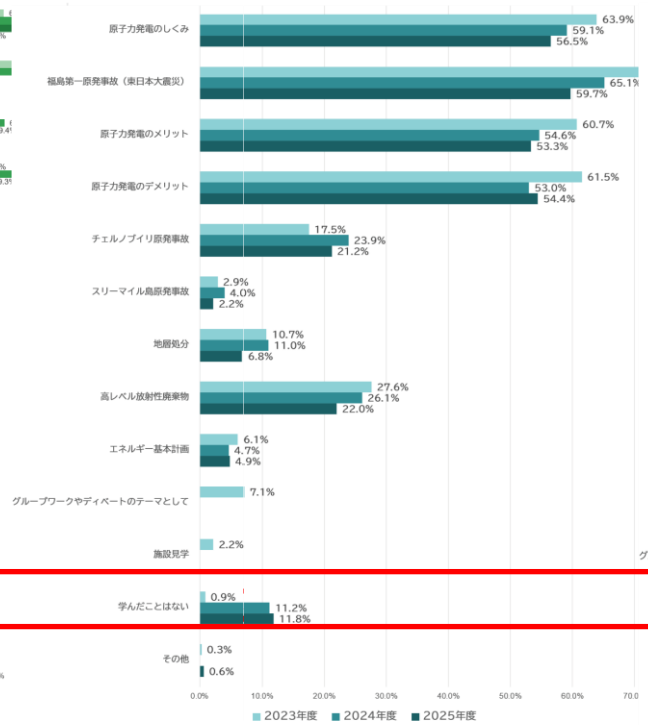
「高校生の原子力に関する意識調査」から

質問９．これまでに学んだ原子力発電に関する項目をすべて選択してください.(複数回答可)

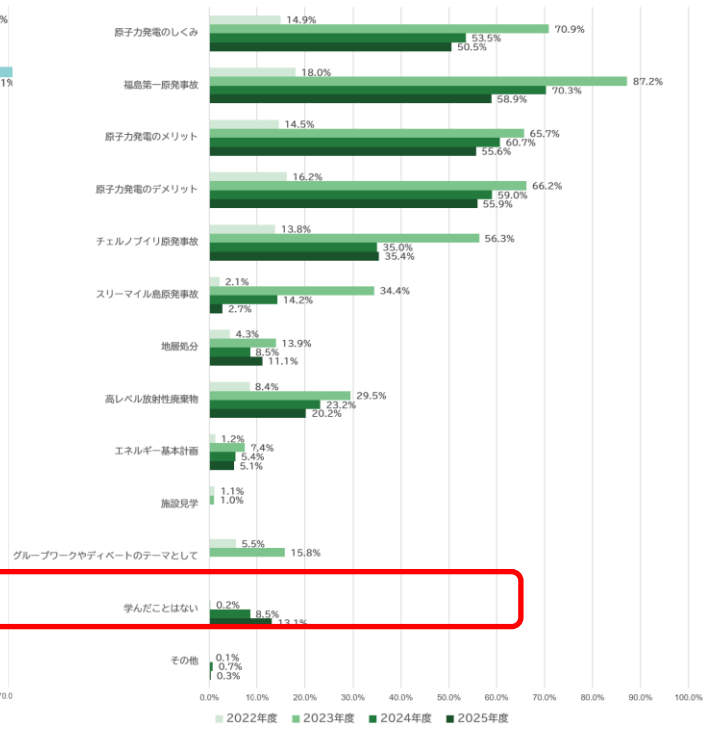
福井県 の過年度比較



兵庫県 の過年度比較



東京都 の過年度比較



年を追うごとに「学んだことはない」以外の項目は減少傾向

謝辞

本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。

この資料は以下の２次元コードより閲覧できます。
ぜひご覧ください。

高校生の原子力に関する意識調査